

実習生のみんなさんの願いが叶いますように。

企画・編集 澁谷 健司

7月に入りました。今年もあつと言う間に半年が過ぎてしまいました。7月5日（金）には、あじけん恒例となった「七夕祭り」も行われました。短冊に思い思いの願いを託す実習生の皆さんの真剣な姿もさることながら、日本の文化、七夕飾りを前にして、笑顔で談笑したり、みんなで写真を撮り合ったりするアジアの若者達の姿がとても印象的で、日本、そして彼らの母国の経済発展を願う気持ちが、一層強くなりました。

今年は、中国・ベトナム・タイ・フィリピン・ミャンマー・インドネシア・カンボジアと7ヶ国からの実習生達が、日本語で、それぞれの思いを短冊に託しました。皆さんの夢が叶うように、微力ながら、2019年後半も、スタッフ・講師一同、精一杯、実習生の皆さんの日本語学習をサポートしていきたいと思います。

あじけんスコープ Vol.76

講師ファイル：毛塚 麻由美先生

今月のあじけん講師ファイルは、毛塚麻由美（けづか まゆみ）が担当致します。当校で日本語講師を始めてから、先月で丸1年になりました。毎回実習生と全力投球の授業を重ね、本当にあつと言う間の1年間でした。

さて、アジア諸国から来日する実習生の皆さんは、私から見ると「健気」で「ハングリー精神」があるという印象です。実習生の国でも日進月歩、AIやICTの迅速化、効率化は当たり前の中、その不屈の精神がどこから来て、実習生の皆さんの心に宿るのか大変興味があります。また、実習生の皆さんからは、通常の学習時間のやりとりだけでなく、母国の料理を作ってくれたり、スープ用食材を分けてくれて、作り方を教えてくれたりと、心温まる人間的な交流を通して言葉で繋がる以上の感動も日々貰っています。

私が授業で心がけていることは、彼らの良さを引き出せるよう1人1人をよく観て、出来るだけ各自にフィットする言葉を掛けることです。拙い日本語、心細い日本の生活に、まず必要なのは、彼らの存在を認めるサインを送ること。そして、授業の中で社会人としての心構えと、自分を日本語で表現する楽しさを教えることが出来たら、別れの日が来ます。そして、自然に成長していく頼もしい姿を見送ることが生き甲斐となっています。



今月の実習生

今月は、中国から来た実習生、向かって左の劉晨月（リュウ シンゲツ）さんと、向かって右の李佳蓮（リ カレン）さんの2人を紹介します。

まずは2人の足元にご注目！彼女達の足元に巻かれているのは、近所のドラッグストアのレジ袋。この日は、朝から大粒の雨が降り続いていたので、2人は靴を濡らさないためにレジ袋で靴を完全防水状態？にして、登校するところでした。以前、雨の日に、裸足で登校して、当校後に教室で靴を履くという荒業を見た事がありますが、このレジ袋作戦は、初めて。まさに、目から鱗の驚きでした。

2人に、中国ではこのようなことをする人が多いのかと聞いてみたところ、彼女達の出身地（中国四川省）は、雨が少なく、雨に慣れていない為、朝から降り続く雨の中、靴を濡らさないで寮から学校まで歩くには、どうすればいいか困っていたら、このアイデアを思いついたそうです。素晴らしい機転で窮地を脱した2人でしたが、「日本はこれから雨が沢山降る季節に入るので、雨の日用の靴があると便利だよ」と、長靴の購入をお勧めしておきました。

あじけん流日本語授業

～七夕（たなばた）を題材にした表現活動～

今月のあじけん流日本語授業は、7月7日（日）の七夕（たなばた）に先立って行われた七夕の物語を題材にして、紙芝居を取り入れた授業の様子をお届けします。

この授業は、日本語の4つの技能（聞く・話す・読む・書く）中でも特に書くこと・読むことによる表現力の向上を目的として行われました。まず、実習生の皆さんは、七夕にまつわる物語を自分達書ける範囲の日本語を使って、作文にしました。1人では、表現できる範囲も限られてしまいがちですが、グループ活動にすることで、皆の知恵が集まり、初級レベルの日本語力でも、ある程度内容のある物語を書くことが出来ました。次に、その物語の紙芝居を作り、その後クラスで紙芝居の発表会を行いました。音読練習は単調な活動なので、どうしても退屈な授業になりがちですが、自分達書いた物語を読むとあって、音読にも力が入り、高いモチベーションを保つことが出来ました。また、自作の紙芝居を披露し合うことで、発表を聞く側の集中力を高めることも出来ました。

準備に時間がかかってしまう（物語作成から紙芝居発表まで約2時間半）のが難点ではありますが、楽しく、興味を持ちながら作文・音読表現練習が出来たので、今後も、題材との相性を見ながら、適時、紙芝居を取り入れた活動を行っていきたいと思います。



紙芝居の絵と原稿を作成中の実習生



手作り紙芝居「織姫と彦星」を披露する実習生



※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます